

講談社刊 きむらゆういち氏『あらしのよるに』シリーズより
あらしのよるに／あるはれたひに／きりのなかで／どしゃぶりのひに／ふぶきのあした

ナラティブシアター 土の子 あらしのよるに

明瞭なことは、物語をつつみこむピアノ。
つくり手とみる人が一緒につむぎ出す空間を届けます。



— あらすじ —

あらしのよるに、まっくらなこやのなかで
ともだちになった、ヤギとオオカミ。
「こいつ、すごいいいやつなんすよねえ…
たべてもうまいけど…でもいっしょにい
ると、なんだかほっとするんすよねえ…
ちょっとだけ、かじってみようかな…
おいろもう、はらがへってさ…」 (本文より)



団体紹介

物語る俳優の生きたことばが空間を変貌させるナラティブシアター。
土の子の作品は俳優と音楽家で構成され、装置・メイキャップ・コスチュームなしで演劇空間を立ち上げていきます。場を共有することから、人と人との心をひらき、つなぎ、生きる力をひきだす作品づくりを目指しています。阪神淡路大震災での巡演経験からその前身が誕生。

企画意図

俳優と音楽。それだけをもって、なにもない空間に、森や草原のどうぶつたち、自然の四季など、きむらゆういち氏の原作をあますところなく登場させてゆきます。
脚色はせず、原文のまま上演します。観客と表現者が一体になってつくりあげる80分。朗読劇ではありません。

出演者紹介

飯原道代／子どもたちとの表現活動を展開している。新劇俳優協会詩の朗読MINI FESTIVALにおいて最優秀賞を二度受賞。ナラティブ・アクティングによる創造活動を実践している。水上勉「ブナよ、木からおりてこい」、谷川俊太郎「ワッハワッハイのぼうけん」(新風舎)藤森直子「ともだちは海のにおい」(理論社)ほか多数。
富 真道／ぶどうの会出身の野田雄司主宰演劇集団ドラマスタジオに所属した。その後、俳優 菅見 純と活動。譚俱樂部を経て《ULPS》を創立。同劇団において原田宗典「箱の中身」、中谷まゆみ「今度は愛妻家」で主役を演じる。本作品ではペースとあふれる演技で毎回好評を博している。
中田 良／桐朋学園音楽大学卒業。ロータリー財団の奨学金を得て渡米。マンハッタン音楽院大学修士課程修了。1997年NYデビューシリーズオーディションで選抜、カーネギーホールにてソロリサイタルを行う。現在は、室内楽・伴奏などの活動を行っている。物語をつなぐピアノ演奏は、土の子には欠かせない存在。